

科目名	文学	教員名	津覇 実明	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介			

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

「文学」を言葉による表現の工夫と捉え、身近な例を素材に考えていきます。表現は他者を想定した伝達行為であり決して自己満足で終わるものではありません。他者に向かって発せられたことばに込められた思いをテキストの読み合わせを通してセッション形式でやり取りしていきます。

2. 授業計画 (1時限 50分×授業回数 60回＝総授業時数 3000分)

1	イントロダクション&クラスルールの決定	21	マンガ総論
2	文学概論	22	マンガⅠ
3	東洋文学	23	マンガⅡ
4	西洋文学	24	演習
5	日本文学Ⅰ	25	アニメⅠ
6	日本文学Ⅱ	26	アニメⅡ
7	現代文学Ⅰ	27	文学の現在Ⅰ
8	現代文学Ⅱ	28	文学の現在Ⅱ
9	現代文学Ⅲ	29	文学の現在Ⅲ
10	現代文学Ⅳ	30	インターネットと文学Ⅰ
11	演習	31	インターネットと文学Ⅱ
12	現代文学Ⅴ	32	インターネットと文学Ⅲ
13	現代文学Ⅵ	33	
14	演習	34	
15	世界文学Ⅰ	35	
16	世界文学Ⅱ	36	
17	世界文学Ⅲ	37	
18	世界文学Ⅳ	38	
19	世界文学Ⅴ	39	
20		40	

3. 評価方法

講義での発言を重視します。出席50% 授業貢献度40% 課題10%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

書 名	著 者 名	出 版 社

5. その他・特記事項

基本的にプリントを使用する。また適宜参考文献を提示する。講師の導入の後に各自のプレゼンテーションを求めることがある。

5. その他・特記事項

科目名	英語A	教員名	儀武 玄秀	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介			

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

指定テキストを用いて、問題文の精読を行い、演習問題を解いていく。それによって、高校卒業レベルの英文読解力を修得することが目標である。

2. 授業計画（1時限 50分×授業回数 30回＝総授業時数 1500分）

1	イントロダクション	21	英文読解演習(MATERIAL13・14)
2	英文読解演習(MATERIAL1・2)	22	英文読解演習(MATERIAL13・14)
3	英文読解演習(MATERIAL1・2)	23	英文読解演習(MATERIAL15・16)
4	英文読解演習(MATERIAL1・2)	24	英文読解演習(MATERIAL15・16)
5	英文読解演習(MATERIAL3・4)	25	英文読解演習(MATERIAL15・16)
6	英文読解演習(MATERIAL3・4)	26	英文読解演習(MATERIAL17・18)
7	英文読解演習(MATERIAL3・4)	27	英文読解演習(MATERIAL17・18)
8	英文読解演習(MATERIAL5・6)	28	英文読解演習(MATERIAL17・18)
9	英文読解演習(MATERIAL5・6)	29	英文読解演習(MATERIAL19・20)
10	英文読解演習(MATERIAL5・6)	30	英文読解演習(MATERIAL19・20)
11	英文読解演習(MATERIAL7・8)	31	
12	英文読解演習(MATERIAL7・8)	32	
13	英文読解演習(MATERIAL7・8)	33	
14	英文読解演習(MATERIAL9・10)	34	
15	英文読解演習(MATERIAL9・10)	35	
16	英文読解演習(MATERIAL9・10)	36	
17	英文読解演習(MATERIAL11・12)	37	
18	英文読解演習(MATERIAL11・12)	38	
19	英文読解演習(MATERIAL11・12)	39	
20	英文読解演習(MATERIAL13・14)	40	

3. 評価方法

原則として、出席点60%＋期末試験40%で評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

書 名	著 者 名	出 版 社
入試英文精読の極意	丹羽裕子	研究社

5. その他・特記事項

科目名	英語B		教員名	儀武 玄秀	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法：講義）

指定テキストを用いて、各Unitごとに内容説明を行い、英文法・語法の学習を進めていく。また、進行状況に応じ、サブテキスト等を用いて、単語・熟語の学習も行う。以上により、高校卒業レベルの英語力を修得することが目標である。

2. 授業計画（1時限 50分×授業回数 30回＝総授業時数 1500分）

1	イントロダクション	21	前置詞
2	文型と動詞・時制	22	疑問詞・関係詞
3	文型と動詞・時制	23	疑問詞・関係詞
4	助動詞	24	疑問詞・関係詞
5	助動詞	25	接続詞
6	助動詞	26	接続詞
7	受動態	27	接続詞
8	受動態	28	比較
9	受動態	29	比較
10	仮定法	30	比較
11	仮定法	31	
12	仮定法	32	
13	不定詞	33	
14	不定詞	34	
15	不定詞	35	
16	動名詞・分詞	36	
17	動名詞・分詞	37	
18	動名詞・分詞	38	
19	前置詞	39	
20	前置詞	40	

3. 評価方法

原則として、出席点60%＋期末試験40%で評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

書 名	著 者 名	出 版 社
英文法・語法SWing	米山達郎・佐藤進二	Gakken

5. その他・特記事項

サブテキストとして、『大学入学共通テスト 時間内で解ける力がつく英英直読英単語・英熟語（鈴木康著・かんき出版）』等を用いる。

科目名	歴史（日本史）	教員名	仲間 徳正	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介			

1. 授業概要（授業方法：講義）

神話の時代から太平洋戦争（戦後史については、「経済」の授業に譲る）に至るまでの我が国の歴史（主に政治史）を概観する。歴史の営みは人間によるものであり、歴史に登場する多くの人物の生々しい実像にできる限り迫り、それらの人物が織りなしてきた歴史を、今日を生きる自らが受け継いで未来につないでいくという観点を常に意識させたい。新学習指導要領では、高等学校で通史教育がなくなるが、元来歴史とは連続性があるものであり、それを意識することが、歴史から学ぶことの第一歩となる。

歴史に「if」はタブーだとされるが、自らが歴史の現場に存在した場合、どのような意思決定をするかを考えることは、今日における政策決定に対する意思表示、すなわち投票行動を中心とする主体的な政治行動につながる。よりよい未来を構築するために、歴史に学び、賢明な選択ができる責任ある公民としての資質を育成するために、そのような観点も交えて構成したい。

2. 授業計画（1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分）

1	歴史を学ぶ目的	21	鎖国と江戸時代の外交
2	考古学と神話	22	元禄時代、享保の改革
3	弥生文化、「邪馬台国」と「卑弥呼」の時代	23	経済の発展
4	大和政権の成立、仏教伝来	24	田沼意次の改革と寛政の改革
5	聖徳太子と冊封体制からの離脱、大化の改新	25	天保の改革、欧米の接近
6	壬申の乱と天武朝	26	ペリー来航と開国
7	律令制度の確立	27	明治維新
8	奈良朝とその混乱	28	大日本帝国憲法の制定
9	平安朝と摂関政治	29	朝鮮問題と日清戦争、三国干渉
10	武士の登場	30	日英同盟、日露戦争
11	院政と平氏政権	31	条約改正、日韓併合
12	源氏政権と執権政治	32	第一次護憲運動の敗北
13	元寇	33	原敬内閣の政治、第一次世界大戦
14	後醍醐天皇と南北朝	34	第二次護憲運動、金融恐慌と昭和恐慌
15	足利義満と勘合貿易	35	満州事変
16	琉球王国の興亡	36	政党政治の崩壊
17	戦国時代、欧州との遭遇	37	日華事変
18	織豊政権	38	アメリカとの戦争と共産主義
19	徳川家康と江戸時代の外交政策	39	敗戦と占領～War Guilt Information Plan
20	幕藩体制	40	筆記試験

3. 評価方法

前期：レポート

後期：筆記試験

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

書 名	著 者 名	出 版 社
教科書：日本史の論点 邪馬台国から象徴天皇制まで	中央公論編集部（編）	中央公論新社（中公新書）

5. その他・特記事項

科目名	国際政治史		教員名	阿波根 剛史	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

近代に始まる国際関係の歴史を概観することを通して、現代国際社会の抱える複雑な課題について、自ら考え、自ら意見表明できる論理的思考能力を養成する。

有機的につながる主権国家と各々の国益が衝突するダイナミックな現代国際政治の背景を、歴史的に理解できるような材料をできるだけ多く提供し、特に後期の後半は、我が国を中心とする外交史を軸に、その当時の我が国の立場を視座に講義を展開する。そして「なぜ平和は崩壊したのか」「なぜ戦争を回避できなかったのか」ということを主体的に考えることにより、平和な国際社会を構築するための方策を考えさせる。

国際政治(外交)は、国際経済(貿易)、国内政治と密接にリンクしているので、その点にも留意しつつ、総合的に国際政治の流れを理解できるように構成する。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分)

1	国際政治とは何か	21	ウィーン体制の構築(2)
2	国際政治の拡張	22	ウィーン体制の構築(3)
3	ウェストファリア体制	23	ウィーン体制の構築(4)
4	ルイ14世と長い18世紀(1)	24	ウィーン体制の崩壊(1)
5	ルイ14世と長い18世紀(2)	25	ウィーン体制の崩壊(2)
6	ルイ14世と長い18世紀(3)	26	ウィーン体制の崩壊(3)
7	ロシアの膨張(1)	27	ウィーン体制の崩壊(4)
8	ロシアの膨張(2)	28	アメリカ南北戦争
9	ロシアの膨張(3)	29	ビスマルク体制(1)
10	オーストリアとプロイセン(1)	30	ビスマルク体制(2)
11	オーストリアとプロイセン(2)	31	ビスマルク体制(3)
12	オーストリアとプロイセン(3)	32	日清戦争と三国干渉
13	オーストリアとプロイセン(4)	33	日露戦争と日韓併合
14	英国の孤立とアメリカの誕生(1)	34	第一次世界大戦への道(1)
15	英国の孤立とアメリカの誕生(2)	35	第一次世界大戦への道(2)
16	フランス革命とナポレオン戦争(1)	36	戦間期の外交(1)
17	フランス革命とナポレオン戦争(2)	37	戦間期の外交(2)
18	フランス革命とナポレオン戦争(3)	38	第二次世界大戦
19	フランス革命とナポレオン戦争(4)	39	冷戦と新冷戦
20	ウィーン体制の構築(1)	40	筆記試験

3. 評価方法

前期: レポート

後期: 筆記試験

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

書 名	著 者 名	出 版 社
オリジナルプリント 参考文献: 近代ヨーロッパ国際政治史 参考文献: 国際秩序 参考文献: 国際関係史	君塚 直隆 H・キッシンジャー、伏見威著訳 義井 博	有斐閣(有斐閣コンパクト) 日本経済新聞出版 南窓社

5. その他・特記事項

中央大学通信教育部「国際政治史」対応

科目名	心理学	教員名	新川 涼子	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介			

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

一般的に「心理学」という言葉からイメージされるものと学問としての心理学には大きな差異があります。本講義では「心理学の成り立ち」と「人の心の基本的な仕組み及び働き」を学びます。

具体的には、心理学の歴史、感覚、知覚、学習、記憶、言語、思考、欲求、感情、性格、知能、発達、社会の各領域の理論および研究について学びます。心理学の基礎知識を学ぶことで、人間の様々な心理的機能

2. 授業計画（1時限 50分×授業回数 60回＝ 総授業時数 3000分）

1	心理学とは何か（その観点と接近法）、心理学の研究法	33	思考・言語：コミュニケーション（言語的・非言語的）
2	心理学の歴史1	34	思考・言語：言語の特性、脳損傷と高次機能の障害
3	心理学の歴史2	35	動機付け：食と性の動機づけ、基本的情動
4	行動：行動の水準、感覚的行動	36	動機付け：親和動機づけ、活動と探索の動機付け
5	行動：行動の水準、感覚的行動、習得的行動	37	動機付け：達成と自己実現の動機づけ
6	行動：シンボル機能と発達レベル、遅延反応、シンボル機能	38	動機付け：葛藤 個人差：知能の測定、知能の因子
7	行動：子どもの遅延反応テスト、三角形の概念	39	自己：パーソナリティ理論、パーソナリティの測定
8	行動：思考・自己調整の道具としての言語	40	自己：自己の評価と機能
9	行動：意識の行動学的視点	41	個人差：知能発達の要因、性格、パーソナリティ発達の要因
10	行動：シンボル機能と対象物の永続性、自己意識と自己鏡映像認知	42	個人差：パーソナリティの不適応・障害
11	行動：意識の発生段階、他者の心についての推量	43	社会行動：社会行動の発達、社会的認知
12	発達：行動発達を規定する要因（遺伝と環境）、発達の変化	44	社会行動：態度と説得、社会的影響、
13	発達：発達の変化（量的変化、質的变化）	45	社会行動：対人魅力と対人関係
14	発達：発達の変化（刷り込みと初期経験、認知過程の初期経験）	46	社会行動：集団の中の個人、社会脳
15	発達：青年のアイデンティティの成り立ち、成人の危機	47	ストレスと適応：日常生活におけるストレスとその歴史的経緯
16	発達：高齢者を支える人間関係	48	ストレスと適応：ストレス研究の進展、周辺領域への影響
17	レポートの書き方1	49	社会心理学：社会的状況の力、他者存在の心理
18	レポートのテーマに関する関連文献を調べる	50	社会心理学：社会的影響とその理論的説明、情動と社会行動
19	学習・記憶：条件づけ（古典的条件付け、オペラント条件付け）	51	インターネット依存・ゲーム依存について考える
20	学習・記憶：技能学習の段階、技能学習の転移	52	心理統計：各種の分析方法1
21	学習・記憶：社会的学習（模倣の学習、観察の学習）	53	心理統計：各種の分析方法2
22	学習・記憶：記憶の過程、感覚記憶、短期記憶、長期記憶	54	レポートの書き方2
23	学習・記憶：学習・記憶のメカニズム	55	レポートのテーマに関する関連文献を調べる
24	感覚・知覚：ものを感じる仕組み、視覚系の仕組み	56	認知心理学：情報処理パラダイム、注意
25	感覚・知覚：聴覚系の仕組み、形を知覚する	57	認知心理学：言語、心的イメージ、思考
26	感覚・知覚：音の知覚・知覚に及ぼす注意の影響	58	認知心理学：使いやすさの認知科学、家の中の認知科学
27	思考・言語：問題解決と試行錯誤、洞察による問題解決	59	心の病態：異常とは何か、知覚の異常
28	思考・言語：問題解決と認知発達	60	心の病態：思考・知能の異常、記憶の異常、異常心理の理解
29	思考・言語：概念の学習・達成、イメージ	61	心の治療：臨床心理学とは、心理療法のプロセス1
30	思考・言語：推論の促進と妨害、推論の方法、発見の様相	62	心の治療：心理療法のプロセス2、フロイトとユング
31	前半総復習	63	後半総復習
32	前半まとめ試験	64	後半まとめ試験

3. 評価方法

出席10%、レポートⅠ10%、レポートⅡ10%、前半まとめ試験35%、後半まとめ試験35%

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

書 名	著 者 名	出 版 社
心理学 第5版 補訂版	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃・河内十郎 編	東京大学出版会

5. その他・特記事項

参考書

よくわかる心理学、無藤隆 他、ミネルヴァ書房、3,000円（税別）

科目名	数的推理 I		教員名	美里 勉	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

問題文の読み方、ヒントの見つけ方、切り込みの仕方を講師独自の観点から説く。
私立中学入試問題と初級程度の公務員試験過去問の反復練習で講師独自の解法の慣れを目指す。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 60 回 = 総授業時数 3000 分)

- | | |
|-----------|------------|
| 1 公約数・公倍数 | 15 通過算 |
| 2 集合と論理 | 16 流水算 |
| 3 場合の数 | 17 時計算 |
| 4 単位換算 | 18 ニュートン算 |
| 5 等差数列 | 19 面積と比 |
| 6 和差算 | 20 円・おうぎ形 |
| 7 面積図 | 21 相似 |
| 8 過不足算 | 22 相似比と面積比 |
| 9 相当算 | |
| 10 損益算 | |
| 11 濃度 | |
| 12 仕事算 | |
| 13 速さ | |
| 14 旅人算 | |

3. 評価方法

- 出席率
- 授業参加率

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

- 私立中学入試問題
- 公務員過去問題集

5. その他・特記事項

科目名	空間把握 I		教員名	美里 勉	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

空間把握は直感や想像力・インスピレーションで解くものも多いが、全て理論的に説明できる。

知識としてその理論を知っているか、公式化されてるのを知っているか、厭わずに反復練習したか、でしかない。

講師独自の解法を紹介しながら私立中学入試問題と初級程度の公務員試験の過去問を反復練習する。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回＝総授業時数 1500 分)

- 1 柱体・すい体・正多面体
- 2 展開図・投影図・回転体
- 3 体積と比
- 4 立体の切断
- 5 折り紙
- 6 回転・移動
- 7 経路

3. 評価方法

1. 出席率
2. 授業参加率

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

1. 私立中学入試問題集
2. 公務員過去問題集

5. その他・特記事項

科目名	課題処理 I		教員名	新川 涼子	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

公務員試験で出題される課題処理について基本を学習します。課題処理は高校までにならった数学とも少し違う分野です、分野ごとの解法を学習し、基本問題、演習問題を解き、短い時間で解答を求められるようにしましょう。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

1	1章 命題・論理 例題 基本問題	16	類推 確認テスト
2	1章 基本問題、演習問題	17	6章 対応関係(4) 嘘つき問題 例題 基本問題
3	1章 演習問題	18	6章 基本問題、演習問題
4	命題・論理 確認テスト	19	6章 演習問題
5	3章 対応関係(1) 勝敗 例題 基本問題	20	嘘つき問題 確認テスト
6	3章 基本問題、演習問題	21	7章 順位・順序(1) 序列・大小 例題 基本問題
7	3章 演習問題	22	7章 基本問題、演習問題
8	勝敗 確認テスト	23	7章 演習問題
9	4章 対応関係(2) 対応 例題 基本問題	24	順序 大小 確認テスト
10	4章 基本問題、演習問題	25	8章 順位・順序(2) 数値 例題 基本問題
11	4章 演習問題	26	8章 基本問題、演習問題
12	対応 確認テスト	27	8章 演習問題
13	5章 対応関係(3) 類推 例題 基本問題	28	順序 数値 確認テスト
14	5章 基本問題、演習問題	29	10章 位置 例題 基本問題
15	5章 演習問題	30	10章 基本問題、演習問題

3. 評価方法

单元ごとの確認テストの合算点

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

TAC出版 地方初級・国家一般職(高卒者)テキスト 判断推理・資料解釈 第4版、
TAC出版編集部 編著、TAC出版

5. その他・特記事項

科目名	作文		教員名	津覇 実明	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要 (授業方法: 講義・演習)

公務員試験の論作文を演習方式でトレーニングしていきます。
時間内に答案作成しその場でプレゼンしたうえで添削をしていきます。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

- | | |
|-----------|--------------|
| 1 論作文の攻略Ⅰ | 15 演習Ⅷ |
| 2 論作文の攻略Ⅱ | 16 演習Ⅸ |
| 3 論作文の攻略Ⅲ | 17 演習Ⅹ |
| 4 時事問題総論 | 18 国家公務員一般職Ⅰ |
| 5 時事問題Ⅰ | 19 国家公務員一般職Ⅱ |
| 6 時事問題Ⅱ | 20 国家公務員一般職Ⅲ |
| 7 時事問題Ⅲ | 21 国税専門家Ⅰ |
| 8 演習Ⅰ | 22 国税専門家Ⅱ |
| 9 演習Ⅱ | 23 国税専門家Ⅲ |
| 10 演習Ⅲ | 24 地方公務員Ⅰ |
| 11 演習Ⅳ | 25 地方公務員Ⅱ |
| 12 演習Ⅴ | 26 地方公務員Ⅲ |
| 13 演習Ⅵ | 27 地方公務員Ⅳ |
| 14 演習Ⅶ | 28 地方公務員Ⅴ |

3. 評価方法

答案の内容40% プレゼン30% 出席30%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

特になし。

5. その他・特記事項

科目名	資料解釈 I		教員名	新川 涼子	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

公務員試験で出題される資料解釈について基本を学習します。

資料解釈は基本的な四則演算の計算能力と数字やグラフから情報を読み取る能力を試す問題です。

頻出分野の問題を短い時間で解答できるように練習を重ねましょう。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

1	1章 実数の計算 例題1～3	16	4章 指数 例題4 演習問題
2	1章 基本の計算問題 練習1	17	4章 演習問題
3	1章 基本の計算問題 例題4 演習問題	18	4章 演習問題
4	1章 練習問題	19	4章 演習問題
5	2章 構成比 例題1 演習問題	20	5章 特殊なグラフ 例題 演習問題
6	2章 演習問題	21	5章 演習問題
7	2章 演習問題	22	後期 中間試験
8	前期 中間試験	23	出たDATA 表問題、グラフ問題
9	2章 演習問題	24	出たDATA 表問題、グラフ問題
10	3章 増減率 例題 演習問題	25	出たDATA 表問題、グラフ問題
11	3章 演習問題	26	出たDATA 表問題、グラフ問題
12	3章 演習問題	27	出たDATA 表問題、グラフ問題
13	3章 演習問題	28	出たDATA 表問題、グラフ問題
14	4章 指数 例題1～3	29	出たDATA 表問題、グラフ問題
15	前期 期末試験	30	後期 期末試験

3. 評価方法

单元ごとの確認テストの合算点

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

TAC出版 地方初級・国家一般職(高卒者)テキスト 判断推理・資料解釈 第3版、
TAC出版編集部 編著、TAC出版

5. その他・特記事項

科目名	法学入門		教員名	儀武 玄秀	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

ある程度法学に触れた学生が、法学の基礎知識を修得することを目標とする。具体的には、公法、民法、刑事法の3分野の全体像を把握した上で、問題演習等を行い、基礎知識の定着を図る。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 45 回 = 総授業時数 2250 分)

- | | |
|--------------|------------|
| 1 イントロダクション | 15 契約 |
| 2 法学とは何か(1) | 16 過失責任 |
| 3 法学とは何か(2) | 17 法解釈学(1) |
| 4 法学という学問 | 18 法解釈学(2) |
| 5 「法」とは何か(1) | 19 法解釈学(3) |
| 6 「法」とは何か(2) | 20 問題演習 |
| 7 公法入門 | 21 問題演習 |
| 8 主権 | 22 問題演習 |
| 9 人権 | |
| 10 統治 | |
| 11 権利の実現 | |
| 12 私法入門 | |
| 13 権利主体 | |
| 14 所有権 | |

3. 評価方法

原則として、出席点で評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

法学入門 [第4版] /永井和之・森光（編）/中央経済社

5. その他・特記事項

科目名	憲法		教員名	阿波根 剛史	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

中央大学通信教育部のオンライン「憲法」受講に対応した授業となる。中大通信教育部「憲法」の以下の科目目的を前提に進める予定である。
憲法は、国の最高法規であり、あらゆる法規範の基礎にあるものです。しかし、憲法はまた、条文の数が限られ、その内容も抽象的なものが多いという事実があります。よく、「憲法は入りやすく、大成しがたい」と言われるのも、ここに理由があると思います。他の法律科目と同様、憲法にも憲法的なものの考え方があります。「憲法的思考方法」とでも言えばよいのでしょうか。憲法というルールを定めることによって国家権力を制限し、それによって一人ひとりの自由や権利を保護する、いわゆる「近代立憲主義」の考え方が「憲法的思考」の背景にあります。具体的な事件や裁判例を通じ、この「憲法的思考」を身につけ、憲法問題について自分なりに答えを出せるようにすることが、到達目標です。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分)

第1章 憲法総論・人権	第2章 統治
1. 日本国憲法の基本原理	1. 国会
2. 天皇	2. 内閣
3. 基本的人権総論	3. 裁判所
4. 幸福追求権	4. 財政
5. 法の下での平等	5. 地方自治
6. 参政権	6. 憲法改正と変遷
7. 精神的自由権	7. 憲法訴訟
8. 経済的自由権	8. 憲法と条約
9. 人身の自由	9. 憲法の保障
10. 受益権	
11. 社会権	

3. 評価方法

試験（科目試験またはスクーリング試験）結果のほか、出席状況・受講態度等も含めて最終評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

工藤 達朗・畑尻 剛 他『憲法』[第5版]（不磨書房）など

5. その他・特記事項

オンラインスクーリング「憲法」に対応

科目名	民法1（総則）		教員名	仲嶺 望	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

民法の導入科目として、民法の全体像を理解するとともに、民法総則（1条～174条）に関する諸制度、各条文の理解を深めることを目的とする。民法の全体構造、民法の原則、権利義務の主体・客体、法律行為、時効を中心に解説する。

2. 授業計画（1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分）

以下の項目について、順に説明をしていく。

- (1) 民法の全体構造の概要
- (2) 権利の主体としての「自然人」
- (3) 権利義務の客体としての「物」
- (4) 法律行為概説
- (5) 意思表示
- (6) 無効と取消し
- (7) 代理
- (8) 法人
- (9) 時効

3. 評価方法

出席・授業態度・最終試験により最終評価

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

・遠藤研一郎『基本テキスト 民法総則』〔第2版〕（2020年）中央経済社

5. その他・特記事項

科目名	刑法総論		教員名	儀武 玄秀	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

オンデマンド講義を視聴した上で、刑法総論の重要論点について補足・解説を行う。また、適宜質疑応答を行っていく。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 45 回 = 総授業時数 2250 分)

1～3回 イントロダクション
4～6回 刑法の基礎
7～9回 刑法理論と指導原則
10～15回 犯罪論・構成要件論
16～21回 違法論
22～27回 責任論
28～33回 未遂犯論
34～39回 共犯論
40～42回 まとめ
43～45回 問題演習

3. 評価方法

原則として、出席点で評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

コンパクト刑法総論／只木誠／新世社

5. その他・特記事項

科目名	中国語		教員名	福里 律子	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

中国語を学ぶ上で重要な「ピンイン」の声調を理解させ、発音を強化させる。発音をじっくり習得後に、基本的な文型を学び、最終的に4技能（読む・聞く・話す・書く）を習得させる。5課毎終了時に復習・小テストを行う。基本的な文法の復習を行い、再度発音の確認を行う。その後は少しレベルを上げて学んだ基本文型に加えて、短文からより作りこんだ文章を作る練習し、読解することができるようにする。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 75 回 = 総授業時数 3750 分)

イントロダクション、発音①（単母音・複母音、声調）、数字・時間・日にち

発音②（子音、無気音、有気音、そり舌音） 第1課 挨拶（1）

発音③（鼻音をともなう母音、-n・-ng） 第2課 挨拶（2）

発音④（声調の変化、軽声、r化） 第3課 挨拶（3）

発音復習 第4課 初めて会う（1）疑問文、-吗？・疑問詞

第5課 初めて会う（2）動詞述語文・A的B、A是B

第6課 尋ねる（1）名詞述語文・一、好吗？

第7課 尋ねる（2）「有」文、介詞、

第8課 尋ねる（3）時間詞

第9課 尋ねる（3）連動文、連用修飾語

第10課 尋ねる（4）方位詞 復習（二）、復習（二）

中間試験

第11課 必要（1）語気助詞「了」① 重ね型動詞

第12課 必要（2）主述述語文、能願動詞①

第13課 必要（3）二重目的語、能願動詞② 数量詞

第14課 必要（4）兼語文、語気助詞「了」②

第15課 必要（5）結果補語、介詞「给」

第16課 約束（1）「过」、还没（有）…呢

第17課 必要（2）選択疑問文、方向補語、

第18課 迎える（1）要…了、是…的

第19課 迎える（2）「」「在」の目的語、同僚補語

第20課 招待・予定 程度補語 復習（二）

3. 評価方法

中間試験、期末試験：60%、発音試験（40%）

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

中国語会話301上（語文研究社）、HSKテキスト2級、HSK2級過去問集（SPRIX）、他

5. その他・特記事項

HSK2級合格のための基礎力向上を目指し、学習意欲をしっかりと持ち授業に挑んでほしい。

科目名	情報リテラシー1 (Word)		教員名	新川 涼子	配当年次	1年
実務教員	○	実務教員の紹介	過去の研究ではC++で音感教育アプリの開発をしていました。現在の研究では、Scratchの指導方法の研究、Excel動画教材のユーザビリティ、保育ICTシステムのユーザビリティについて研究しています。教員としての業務上はExcelVBAを用いて統計処理、成績に関する帳票管理などを行っています。			

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

Windowsの基本操作、タッチタイピング、ビジネス文書の基礎から応用までの技能を学習します。
Word文書処理技能認定試験3級の取得を目指します。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

1	タイピング練習	16	Word3級 練習問題2
2	タイピング練習	17	Word3級 練習問題2
3	ビジネス文書の基本 ページ設定、文字編集	18	Word3級 練習問題3
4	演習問題	19	Word3級 練習問題3
5	表入りビジネス文書	20	Word3級 模擬問題1
6	練習問題	21	Word3級 模擬問題1
7	画像の挿入、タブとリーダー	22	Word3級 模擬問題2
8	練習問題	23	Word3級 模擬問題2
9	印刷設定、その他高度な設定	24	Word3級 模擬問題3
10	練習問題	25	Word3級 模擬問題3
11	はがきの作成	26	Word3級 模擬問題4
12	差し込み印刷	27	Word3級 模擬問題5
13	練習問題	28	Word3級 模擬問題6
14	Word3級 練習問題1	29	Word3級 模擬問題7 検定リハーサル
15	Word3級 練習問題1	30	Word文書処理技能認定試験3級 検定実施

3. 評価方法

毎回の授業時の課題30%、検定の試験点数70%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

Word文書処理技能認定試験 3級問題集(2021対応)、編著：サーティファイソフトウェア
活用能力認定委員会、発行：サーティファイ

5. その他・特記事項

タイピングが苦手な人は、自宅などで練習しましょう (タイピングゲームは楽しく練習できます)

科目名	情報リテラシー2 (Excel)		教員名	新川 涼子	配当年次	1年
実務教員	○	実務教員の紹介	過去の研究ではC++で音感教育アプリの開発をしていました。現在の研究では、Scratchの指導方法の研究、Excel動画教材のユーザビリティ、保育ICTシステムのユーザビリティについて研究しています。教員としての業務上はExcelVBAを用いて統計処理、成績に関する帳票管理などを行っています。			

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

Excelでのデータ入力の基本、表編集、計算式の入力、関数、グラフなどExcelの基本的な技能を学習し、Excel表計算処理技能認定試験3級の取得を目指します。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

1	エクセルでのデータ入力、合計、平均	16	Excel3級 練習問題2
2	掛け算、表編集、練習問題	17	Excel3級 練習問題3
3	MAX、MIN、COUNT、RANK.EQ関数	18	Excel3級 練習問題3
4	練習問題	19	Excel3級 模擬問題1
5	割合の計算、演習問題	20	Excel3級 模擬問題1
6	練習問題	21	Excel3級 模擬問題2
7	グラフ作成1	22	Excel3級 模擬問題2
8	グラフ作成2	23	Excel3級 模擬問題3
9	ROUND、ROUDUP,ROWNDDOWN関数	24	Excel3級 模擬問題3
10	練習問題	25	Excel3級 模擬問題4
11	IF関数、IF関数のネスト	26	Excel3級 模擬問題4
12	練習問題	27	Excel3級 模擬問題5
13	Excel3級 練習問題1	28	Excel3級 模擬問題6
14	Excel3級 練習問題1	29	Excel3級 模擬問題7 リハーサル
15	Excel3級 練習問題2	30	Excel表計算処理技能認定試験3級 検定実施

3. 評価方法

毎回の授業時の課題30%、検定の試験点数70%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集(2021対応)、編著：サーティファイソフトウェア活用能力認定委員会、発行：サーティファイ

5. その他・特記事項

科目名	情報リテラシー3 (PowerPoint)		教員名	新川 涼子	配当年次	1年
実務教員	○	実務教員の紹介	過去の研究ではC++で音感教育アプリの開発をしていました。現在の研究では、Scratchの指導方法の研究、Excel動画教材のユーザビリティ、保育ICTシステムのユーザビリティについて研究しています。教員としての業務上はExcelVBAを用いて統計処理、成績に関する帳票管理などを行っています。			

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

スライドのテーマ、バリエーションの適用、箇条書きテキストの段落下げ、表の編集、図の挿入、スライドの切り替え効果などPowerPointの基本操作を学習し、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験初級の取得を目指します。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

1	PowerPointの基本操作	16	PowerPoint初級 練習問題2
2	練習問題	17	PowerPoint初級 練習問題2
3	表の編集、スタイルの適用	18	PowerPoint初級 練習問題3
4	練習問題	19	PowerPoint初級 練習問題3
5	図の挿入 (SmartArtグラフィックなど)	20	PowerPoint初級 模擬問題1
6	練習問題	21	PowerPoint初級 模擬問題1
7	練習問題	22	PowerPoint初級 模擬問題2
8	スライドの画面切り替え効果、アニメーション	23	PowerPoint初級 模擬問題2
9	練習問題	24	PowerPoint初級 模擬問題3
10	紹介したい観光地について情報を収取	25	PowerPoint初級 模擬問題3
11	紹介したい観光地のスライド作成1	26	PowerPoint初級 模擬問題4
12	紹介したい観光地のスライド作成2	27	PowerPoint初級 模擬問題4
13	紹介したい観光地のスライド 発表会	28	PowerPoint初級 模擬問題5 検定リハーサル
14	PowerPoint初級 練習問題1	29	PowerPoint初級 模擬問題5 検定リハーサル
15	PowerPoint初級 練習問題1	30	PowerPointプレゼンテーション技能認定試験初級 検定実施

3. 評価方法

毎回の授業時の課題30%、検定の試験点数70%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

PowerPointプレゼンテーション技能認定試験問題集 (2021対応)、
編著: サーティファイソフトウェア活用能力認定委員会、発行: サーティファイ

5. その他・特記事項

科目名	ビジネスマナー		教員名	渡部 勝磨	配当年次	1年
実務教員	○	実務教員の紹介	航空会社に勤務し、国際線予約業務を中心に担当しつつ英語や接客マナー等も業務の一環として身に付けてまいりました。その経験を生かして指導していきたいと思います。			

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

指定公式テキストを用いて期待される社会人・職業人を目標として、基本事項の解説を行い、併せて公式試験問題集・過去問題演習を行い、ビジネス能力検定ジョブパス3級合格を目指す

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

- 1－(1) キャリアと仕事へのアプローチ
- 1－(2) 仕事の基本となる8つの意識
- 1－(3) コミュニケーションとビジネスの基本
- 1－(4) 指示の受け方と報告・連絡・相談
- 1－(5) 話し方と聞き方のポイント
- 1－(6) 来客応対と訪問の基本マナー
- 1－(7) 会社関係の付き合い
- 2－(1) 仕事の取り組み方
- 2－(2) ビジネス文書の基本
- 2－(3) 電話応対
- 2－(4) 統計データの読み方・まとめ方
- 2－(5) 情報収集とメディアの活用
- 2－(6) 会社を取り巻く環境と経済の基本

3. 評価方法

出席率70%以上 期末試験50%以上で評価する。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

書名	著者名	出版社
ビジネス能力検定ジョブパス 3級公式テキスト 3級公式問題集	一般財団法人職業教育・キャリア財団	日本能率協会 マネジメントセンター

5. その他・特記事項

科目名	公務研究Ⅰ		教員名	阿波根 剛史	配当年次	1年
実務教員	○	実務教員の紹介	中小企業家同友会による中小企業魅力発見フェアに参加し、フィールドワークやヒアリングの実践を通して今年度のフェア実施にもたずさわる。			

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

●課題解決型学習プロセスと学習プログラム：－フィールドワークやヒアリングなど実践力を学ぶ－
地域や企業に目を向け、その課題を調べ把握することを通して、地域や企業への眼差しを持った
未来を切り拓くことのできる人材を育成すること。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

- 1 地域や企業の調べ方と話し合いの基礎力
 - 1-1 導入・オリエンテーション
 - 1-2 参加者自己紹介
 - 1-3 チームづくりとテーマ設定
 - 1-4 テーマについての地域資源と課題だし
 - 1-5 ワーク「日頃の現場での話し合いについてのお悩み共有」
 - 1-6 講義「話し合いの場の進め方～基礎スキル～」
 - 1-7 地域や企業へのインタビュー
 - 1-8 フィールドワーク
- 2 中間発表
 - 2-1 フィールドワーク
 - 2-2 振り返りと発表内容のブラッシュアップ
 - 2-3 調べたことの発表

3. 評価方法

調べたことの発表：地域や企業への訪問やヒアリング、発表に向けての事前準備や学習など積極的に参加しているかどうかにより評価する

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

「ファシリテーション革命」 中野民夫著／岩波アクティブ新書 2003 年
 「組織を動かすファシリテーションの技術」 堀公俊著／PHP 研究所、2004 年
 引用：「問いかけの作法」 著：安齋勇樹

5. その他・特記事項

科目名	HR・課外授業Ⅰ		教員名	阿波根 剛史	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義・実習 ）

現在・今後の学生生活で注意すべき事柄、また、役立つ（かもしれない）事柄について、場合によっては学年の枠を超えて参加し、講義や調査、グループ学習、討論などを行ってもらう時間となります。学生の積極的な参加・発言を期待します。

2. 授業計画（1時限 50 分×授業回数 30 回＝総授業時数 1500 分）

ホームルームとして学校内外のことがらについて話し合うことに加えて、学生が主体的に参加し課題解決のために取材調査したり討論発表を行ったりする授業を含んで実施する予定です。

テーマとしては

○沖縄経済について考える

○「地域課題」について考える

○「異'校'種間交流」

○SDGを考え実践するための学習

などを想定しています。なお、学年によって試験や就職活動その他時間割の状況により、外部のイベント等に参加する場合としない場合があります。

3. 評価方法

学生の積極的な参加態度等により評価します。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

必要なものがあれば、その都度配布します。

5. その他・特記事項

科目名	論理学		教員名	津覇 実明	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

リベラルアーツの一つとして論理学を学ぶ意義は大きい。本講義では論理的に考える力を培うために①論理的に読む②論理的に書く③論理的に議論する等を念頭に講義を進める。講義においては課題を読み質疑応答を通して真偽を明白にしたり、最適解を導くための論の構成を指導する。実社会に出てからも役立つ論理的思考力を育んでいく。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分)

1	講義の進め方について	21	
2	論理学の基礎	22	
3	条件から考える	23	
4	真理と妥当性	24	
5	論理的に書く	25	
6	論理的に議論する	26	
7	課題演習	27	
8	論理的に考える一検証	28	
9	論理的な文章の構造	29	
10	論理的な文	30	
11	論理的な議論一方法	31	
12	論理的な議論一実践	32	
13	論理的な議論一組み立て	33	
14	論理的な議論一演習	34	
15	論理的に書く一演習	35	
16	課題演習	36	
17	課題演習	37	
18	課題演習	38	
19	課題演習	39	
20	課題演習	40	

3. 評価方法

毎講義での発表40% 課題提出20% 出席40%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

書 名	著 者 名	出 版 社

5. その他・特記事項

毎回配布するプリントを素材にして講義を進める。その都度の質問や疑問点を拾いながら対話形式で行う。集中して意欲的に参加すること。

科目名	統計学		教員名	新川 涼子	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

近年役立つ学問として注目を集めている統計学とは、ある1つの群のデータに対してその性質を調べたり、あるいは手持ちのデータからもっと大きな未知のデータや未来のデータを推測するための学問です。統計学には記述統計学と推測統計学がありますが、本講義では、記述統計学を中心に学び、複雑な計算やグラフ化などについてはExcelを活用します。

具体的には、最初にデータの特徴を捉えるため、度数分布、ヒストグラムの作成方法を学びます。次に平均、分散、標準偏差、中央値について計算方法を学びます。データの関係性をつかむため、相関係数、

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分)

1	統計学とは、目的の明確化、統計で使われるデータの形式	21	t 検定 (母平均の差の検定)
2	度数分布表の作成、ヒストグラムの作成	22	練習問題 (両側検定、片側検定、考察)
3	平均値、中央値、分散、標準偏差	23	統計検定3級練習問題の解答、解説
4	練習問題 (ヒストグラム、平均・分散・標準偏差の計算)	24	後期中間試験
5	確立の基礎 (独立な試行、条件付き確率)	25	統計局のデータを用いて t 検定を実施し、考察をまとめる
6	統計検定4級練習問題の解答、解説 (1)	26	F検定 (母分散の検定)、分散分析 (1元配置)
7	統計検定4級練習問題の解答、解説 (2)	27	分散分析 (2元配置)
8	前期中間試験	28	時系列分析 (データの視覚化、予測)
9	正規分布、標準化	29	統計検定3級練習問題の復習
10	練習問題 (正規分布表の読み取り、標準化)	30	統計検定2級練習問題の解答、解説 (1)
11	母平均・母比率の区間推定	31	統計検定2級練習問題の解答、解説 (2)
12	練習問題 (平均の区間推定)	32	後期期末試験
13	順位、偏差値、箱ひげ図	33	
14	パレート図、ABC分析	34	
15	正規分布、平均の区間推定、ABC分析 総復習	35	
16	前期期末試験	36	
17	相関係数、散布図	37	
18	練習問題 (相関係数の計算、散布図の作成、考察)	38	
19	回帰分析、重回帰分析	39	
20	練習問題 (相関係数、回帰式、予測、考察)	40	

3. 評価方法

講義中の課題20%、レポート10%、

試験70% (前期中間試験、前期期末試験、後期中間試験、後期期末試験)

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

書 名	著 者 名	出 版 社
やさしく学ぶデータ分析に必要な統計の教科書	羽山博	株式会社インプレス

5. その他・特記事項

科目名	地理学	教員名	仲間 徳正	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介			

1. 授業概要（授業方法：講義）

地理学という学問は、大きく分けると「系統地理学」、「地誌学」、「地図学」、「地理学説史」という4つの系統からできており、「系統地理学」はさらに地形、気候、海洋、土壌などの自然的環境をベースにした「自然地理学」と、人間、文化、社会などの分布、特色、環境との関係などを研究する「人文地理学」に分かれる。

この講義では各種公務員試験における一般教養レベルの地理学的基础知識が身につくことを直接の目的にしており、授業内容も、専門的に地理学の一分野を追求するのではなく、前期は自然地理学、後期は人文地理学のなかでも公務員試験対策に特化して、各国・地域の特徴を、教養試験レベルで把握できるようにする。

講義中心になるが、視覚資料を多く用い、高等学校での地理未修者にも理解し易いように内容を構成する。

2. 授業計画（1時限 50分×授業回数 60回＝総授業時数 3000分）

1	オリエンテーション、世界地図の図法（1）	21	東南アジアの地誌（1）
2	世界地図の図法（2）	22	東南アジアの地誌（2）
3	大陸の分布と地形（1） 概説、産地	23	南アジアの地誌
4	大陸の分布と地形（2） 沖積平野、台地	24	西アジアの地誌
5	大陸の分布と地形（3） 浸食平野、沈水海岸	25	アフリカの地誌（1）
6	大陸の分布と地形（4） 離水海岸	26	アフリカの地誌（2）
7	大陸の分布と地形（5） 珊瑚礁、氷河地形	27	西ヨーロッパの地誌（1）
8	大陸の分布と地形（6） 砂漠地形、カルスト	28	西ヨーロッパの地誌（2）
9	大陸の分布と地形（7） 断層地形、構造盆地	29	東ヨーロッパの地誌
10	世界の気候（1）概説、ケッペンの気候区分（1）	30	北ヨーロッパの地誌
11	世界の気候（2）ケッペンの気候区分（2）	31	ロシアとその周辺国の地誌（1）
12	世界の気候（3）ケッペンの気候区分（3）	32	ロシアとその周辺国の地誌（2）
13	世界の土壌	33	北米の地誌
14	世界の農業（1）概説、ホイットルシーの農業地域区分（1）	34	南米の地誌
15	世界の農業（2）ホイットルシーの農業地域区分（2）	35	オセアニアの地誌
16	世界の農業（3）各地の特色ある農業	36	日本の地形
17	世界の鉱工業（1）各地の特色ある工業	37	日本の地誌（1）
18	世界の鉱工業（2）資源とエネルギー問題	38	日本の地誌（2）
19	東アジアの地誌（1）	39	日本の地誌（3）
20	東アジアの地誌（2）	40	期末考査

3. 評価方法

前期：レポート

後期：筆記試験

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

書 名	著 者 名	出 版 社
『最新基本地図 世界・日本 46訂版』 オリジナルプリント		帝国書院

5. その他・特記事項

科目名	英語C		教員名	渡部 勝磨	配当年次	2年
実務教員	○	実務教員の紹介	航空会社に勤務し、国際線予約業務を中心に担当しつつ英語や接客マナー等も業務の一環として身に付けてまいりました。その経験を生かして指導していきたいと思います。			

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

中央大学指定テキスト英語Cを用いて、世界の名著を簡潔にまとめて紹介。要点を知ることができ一般教養も深めることができる概要書ともいえる ロバートダウンズの Books That Changed The World(世界を変えた本) を英文で読み解きながら知識を習得する。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

1	ANATOMY OF POWER POLITICS 君主論 マキャベリ	Niccolo Machiavelli	
2	AMERICAN FIREBRAND コモンセンス トーマスペイン	Thomas Paine	
3	INDIVIDUAL VERSUS STATE ヘンリーデビットソロー	Henry David Thoreau	個人対国家
4	CRUSADER FOR THE LOWLY アंकルトムズ ケビン ハリエット・ビーチャー・ストー	Harriet Beecher Stowe	
5	PATRON SAINT OF FREE ENTERPRISE 国富論 アダム・スミス	Adam Smith	

3. 評価方法

筆記試験を行う

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

書名	著者名	出版社
英語C	岡本 正明	中央大学 通新教育部

5. その他・特記事項

科目名	英語D		教員名	渡部 勝磨	配当年次	2年
実務教員	○	実務教員の紹介	航空会社に勤務し、国際線予約業務を中心に担当しつつ英語や接客マナー等も業務の一環として身に付けてまいりました。その経験を生かして指導していきたいと思っています。			

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

英語の文章を丁寧に的確に読むこと。

テキストの題材は、20世紀前半の3人のアメリカ人が書いた比較的平明な文章です。第1部から第Ⅲ部は、電球開発や発電所創設など、まさに「世紀の発明」を次々と生み出していた時期のエディソンの旺盛な活躍ぶりを生き生きと伝える逸話を助手のひとりが記した手記的な文章。第Ⅳ部は、文明の利器でありながら(あるが故に、かもしれませんが)トラブルの元凶ともなる電話についてのひねりの効いたエッセイ。第Ⅴ部は、それ自体が映画であるようなたたずまいを帯びている不思議なエッセイ。三者三様ですが、どれも読み物としての興味深さについては太鼓判を押します。必要なのはあなた自身がそれを読むことです。それがこの授業そのものにほかなりません。そのために重要なのは、知的好奇心と理解への意欲、そして一寸の粘り強さ(自分で腑に落ちるまであきらめないこと)です。

2. 授業計画 (1時限 50分×授業回数 30回＝総授業時数 1500分)

1	第Ⅰ部 Menlo Park Reminiscences; Early Days (1)	16	第Ⅱ部 Menlo Park Reminiscences; Paper Filament (8)
2	第Ⅰ部 Menlo Park Reminiscences; Early Days (2)	17	第Ⅲ部 Menlo Park Reminiscences; Development (1)
3	第Ⅰ部 Menlo Park Reminiscences; Early Days (3)	18	第Ⅲ部 Menlo Park Reminiscences; Development (2)
4	第Ⅰ部 Menlo Park Reminiscences; Early Days (4)	19	第Ⅲ部 Menlo Park Reminiscences; Development (3)
5	第Ⅰ部 Menlo Park Reminiscences; Early Days (5)	20	第Ⅲ部 Menlo Park Reminiscences; Development (4)
6	第Ⅰ部 Menlo Park Reminiscences; Early Days (6)	21	第Ⅲ部 Menlo Park Reminiscences; Development (5)
7	第Ⅰ部 Menlo Park Reminiscences; Early Days (7)	22	第Ⅲ部 Menlo Park Reminiscences; Development (6)
8	第Ⅰ部 Menlo Park Reminiscences; Early Days (8)	23	第Ⅲ部 Menlo Park Reminiscences; Development (7)
9	第Ⅱ部 Menlo Park Reminiscences; Paper Filament (1)	24	第Ⅲ部 Menlo Park Reminiscences; Development (8)
10	第Ⅱ部 Menlo Park Reminiscences; Paper Filament (2)	25	The Telephone Nuisance (1)
11	第Ⅱ部 Menlo Park Reminiscences; Paper Filament (3)	26	The Telephone Nuisance (2)
12	第Ⅱ部 Menlo Park Reminiscences; Paper Filament (4)	27	"In Dreams Begin Responsibilities" (1)
13	第Ⅱ部 Menlo Park Reminiscences; Paper Filament (5)	28	"In Dreams Begin Responsibilities" (2)
14	第Ⅱ部 Menlo Park Reminiscences; Paper Filament (6)	29	"In Dreams Begin Responsibilities" (3)
15	第Ⅱ部 Menlo Park Reminiscences; Paper Filament (7)	30	EXAMINATION

何にもまして、言葉を読み、理解しようとする意欲・姿勢を持っていることが大切です。そして、通信教育の学習を通じて、英語を理解するための基本事項をあらためて確実に身につけてほしいと願います。辞書や文法書等を十分に活用してください。まず自分の手と目を使って調べてみるのが大切です。間違ふことを恐れる必要はまったくありません。添削によって間違いに気づくことを通じて自分の知識を正確なものにし、英語の理解力を高めてください。ぜひとも主体的に学習に取り組み、それで得た物を自分の身にしてください。

3. 評価方法

筆記試験を行う。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

書 名	著 者 名	出 版 社
英語D	秋山 嘉	中央大学通信教育部

5. その他・特記事項

推薦図書

高校生～大学生向けに編集された、学習用の英和辞典(収録語数が8万語ほどあり、語の意味の丁寧な説明や例文が豊富に載っている、いわゆる英和中辞典という括りに入るもの。優れたものが多数出版されているので、その一つが今手元にあるなら、それで構いません。あらたに購入するのであれば、実際に自分で手に取って見て見やすく引きやすいと感じるものを選ぶのが望ましい)を、ぜひ十分に活用してください。

科目名	数的処理Ⅱ		教員名	美里 勉	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

問題文の読み方、ヒントの見つけ方、切り込みの仕方を講師独自の観点から説く。

私立中学入試問題と初級程度の公務員試験過去問の反復練習で講師独自の解法の慣れを目指す。

2. 授業計画（1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分）

- | | |
|-----------|------------|
| 1 公約数・公倍数 | 15 通過算 |
| 2 集合と論理 | 16 流水算 |
| 3 場合の数 | 17 時計算 |
| 4 単位換算 | 18 ニュートン算 |
| 5 等差数列 | 19 面積と比 |
| 6 和差算 | 20 円・おうぎ形 |
| 7 面積図 | 21 相似 |
| 8 過不足算 | 22 相似比と面積比 |
| 9 相当算 | |
| 10 損益算 | |
| 11 濃度 | |
| 12 仕事算 | |
| 13 速さ | |
| 14 旅人算 | |

3. 評価方法

- 出席率
- 授業参加率

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

- 私立中学入試問題
- 公務員過去問題集

5. その他・特記事項

科目名	空間把握 II		教員名	美里 勉	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

空間把握は直感や想像力・インスピレーションで解くものも多いが、全て理論的に説明できる。
知識としてその理論を知っているか、公式化されてるのを知っているか、厭わずに反復練習したか、でしかない。
講師独自の解法を紹介しながら私立中学入試問題と初級程度の公務員試験の過去問を反復練習する。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回＝総授業時数 1500 分)

- 1 柱体・すい体・正多面体
- 2 展開図・投影図・回転体
- 3 体積と比
- 4 立体の切断
- 5 折り紙
- 6 回転・移動
- 7 経路

3. 評価方法

1. 出席率
2. 授業参加率

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

1. 私立中学入試問題集
2. 公務員過去問題集

5. その他・特記事項

2025年度 文化教養専門課程 公務員・法律本科 尚学院公務員法律大学校

科目名	課題処理Ⅱ		教員名	新川 涼子	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

公務員試験で出題される課題処理について解答方法を学習し、問題集で過去問題を解きます。
1年次に学習した分野については、より難易度の高い問題にもチャレンジします。

2. 授業計画 (1時間 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分)

1	集合の復習1 (ベン図)、出たDATA問	31	出たDATA
2	集合の復習2 (ベン図)、出たDATA問	32	多集合対応復習、出たDATA
3	集合の復習3 (線分図)、出たDATA問	33	組み分け、出たDATA
4	集合 確認テスト	34	対応 確認テスト
5	TAC 第13章 魔法陣 例題、基本問題	35	論理と集合復習、出たDATA
6	TAC 第13章 演習問題	36	三段論法と対偶復習 出たDATA
7	出たDATA問	37	ド・モルガンの法則復習 出たDATA
8	魔法陣 確認テスト	38	論理 確認テスト
9	TAC 第14章 道順 例題、基本問題	39	直線的関係復習、出たDATA
10	TAC 第14章 演習問題	40	平面的関係復習、出たDATA
11	出たDATA問	41	出たDATA
12	道順 確認テスト	42	位置関係 確認テスト
13	TAC 第15章 手順 例題、基本問題	43	試合トーナメント戦復習、出たDATA
14	TAC 第15章 演習問題	44	出たDATA
15	出たDATA問	45	試合リーグ戦復習、出たDATA
16	手順 確認テスト	46	出たDATA
17	TAC 第16章 曜日 例題、基本問題	47	試合 確認テスト
18	TAC 第16章 演習問題	48	証言 (嘘つき問題) 復習、出たDATA
19	出たDATA問	49	出たDATA
20	曜日 確認テスト	50	証言 確認テスト
21	TAC 第16章 曜日 例題、基本問題	51	数量 貸し借り、出たDATA
22	TAC 第16章 演習問題	52	出たDATA
23	TAC 第16章 演習問題	53	時計のずれ、出たDATA
24	出たDATA問	54	出たDATA
25	曜日 確認テスト	55	その他の問題、出たDATA
26	順序関係復習、出たDATA	56	出たDATA
27	出たDATA問	57	証言・その他の問題 確認テスト
28	出たDATA問	58	ルール、天びん、読唇術、出たDATA
29	順序関係 確認テスト	59	ルール、天びん、読唇術 確認テスト
30	2集合対応復習、出たDATA	60	総復習

3. 評価方法

授業中の課題20%、前期中間テスト20%、前期期末テスト20%、
後期中間テスト20%、後期期末テスト20%で評価します

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

TAC出版 地方初級・国家一般職(高卒者)テキスト 判断推理・資料解釈 第4版、
TAC出版編集部 編著、TAC出版
国家公務員・地方初級公務員試験 過去問精選問題集 出たDATA問 (6) 判断推理 (課題処理)
・空間把握、東京アカデミー、東京アカデミー

5. その他・特記事項

科目名	小論文		教員名	津覇 実明	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要 (授業方法: 講義・演習)

小論文は「小さな」「論文」である。「小さな」の意味は字数で800字から1500字の範囲とする。「論文」は論理的な文章を意味する。課題文から読み取った論点を文字を通して読み手に伝えるチャンネルが論理である。このことを肝に銘じて講義に臨んで欲しい。

(1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

- | | |
|---------------|---------|
| 1 小論文の書き方 I | 15 演習 V |
| 2 小論文の書き方 II | |
| 3 課題に正対する | |
| 4 論点の抽出 I | |
| 5 論点の抽出 II | |
| 6 論点の整理 I | |
| 7 論点の整理 II | |
| 8 小論文の構成 I | |
| 9 小論文の構成 II | |
| 10 小論文の構成 III | |
| 11 演習 I | |
| 12 演習 II | |
| 13 演習 III | |
| 14 演習 IV | |

3. 評価方法

論文の内容50% 出席率40% 取り組む姿勢10%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

特になし。

5. その他・特記事項

科目名	日本法制史		教員名	阿波根 剛史	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

この授業は、中央大学通信教育部の「日本法制史」オンライン授業に対応するものであるから、オードックスに指定教科書を読み込んでいく形式の授業となる。であるから、中大の「日本法制史」シラバスを以下に載せる。

本講義では、前近代の日本における法観念・法制度の形成・展開のあり方について学習する。ある時代や地域において法やそれをめぐる諸制度がどのように成り立ち、またそれらの存立の背景にどのような考え方が存在したのであろうか。こうした視角から、本講義では前近代の日本における「法」のあり方、すなわち成文の法規・法典と呼ぶべきものだけでなく、それぞれの時代において「法」なるものがどのように考えられていたのかについて、当時の国家や社会のあり方にも意識を置きつつ検討する。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 60 回 = 総授業時数 3000 分)

- 1 ガイダンス、古代(1)「法」の起源をめぐる諸問題
- 2 古代(2) 律令法
- 3 古代(3) 公家朝廷法
- 4 中世(1) 中世の土地と国家
- 5 中世(2) 中世の法源と法圏
- 6 中世(3) 鎌倉幕府の訴訟と法
- 7 中世(4) 室町・戦国期の法と裁判
- 8 近世(1) 日本近世国家の法体制
- 9 近世(2) 江戸幕府の統治組織と法秩序
- 10 近世(3) 江戸時代の裁判
- 11 前近代法から近代法へ
- 12 明治期の法
- 13 明治期の法学教育
- まとめ

3. 評価方法

出席、授業態度、試験結果など総合的に加味して評価する。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

本間修平『日本法制史』中央大学通信教育部
その他、参考資料を配布する予定。

5. その他・特記事項

中央大学通信教育部「日本法制史」オンライン授業対応

科目名	民法演習（2年）	教員名	仲嶺 望	配当年次	2年
実務教員		実務教員の紹介			

1. 授業概要（授業方法：講義・演習）

民法総則について知識の習得と過去問を踏まえて実践的に問題演習を行う。インプット（講義）とアウトプット（演習）のバランスを重視し、出題に対する知識の習熟を図る。民法については総則と物権の頻出論点を重点に授業を進める。

2. 授業計画

（1時限 50 分×授業回数 30 回＝総授業時数 1500 分）

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 総則①－民法の意義、権利と義務 | 1 5 物権⑦－約定担保物権（質権） |
| 2 総則②－権利能力・行為能力 | 1 6 物権⑧－約定担保物権（抵当権） |
| 3 総則③－意思表示 | |
| 4 総則④－法人・権利なき社团 | |
| 5 総則⑤－代理（無権代理） | |
| 6 総則⑥－代理（表見代理） | |
| 7 総則⑦－条件・期限・期間 | |
| 8 総則⑧－時効（取得時効・消滅時効） | |
| 9 物権①－不動産物権変動 | |
| 10 物権②－動産物権変動 | |
| 11 物権③－占有権 | |
| 12 物権④－所有権 | |
| 13 物権⑤－法定担保物権（留置権） | |
| 14 物権⑥－法定担保物権（先取特権） | |

3. 評価方法

出席率・授業態度50%、演習課題正答率50%

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

オリジナルのプリント等を使用する。

5. その他・特記事項

科目名	民法2（物権）		教員名	仲嶺 望	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

この授業では、担保物権を含む物権法全体を対象に、物権法の基礎的事項について解説する。
特に中心となるのは、所有権と抵当権である。

2. 授業計画（1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分）

- 1 物権とは、物権の効力
- 2 物権変動総論・物権変動の時期
- 3 物権変動と登記
- 4 物権変動の第三者
- 5 動産物権変動
- 6 占有権
- 7 所有権
- 8 担保物権総論、先取特権、留置権
- 9 質権、抵当権
- 10 譲渡担保
- 11 その他の非典型担保

3. 評価方法

出席率及び最終試験により評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

淡路 剛久・鎌田 薫 他『民法Ⅱ－物権』[第5版]以降（有斐閣）
六法

5. その他・特記事項

科目名	民法5（親族・相続）	教員名	佐々木 邦	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介			

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

親族法は個人をとりまく家族の法的関係を、個人同士の個別の関係として規律している。規律対象となっているのは、夫婦、親子、その他の親族関係である。相続法は人の死亡に伴って、その人の所有している財産、つまり遺産所有権の帰属先を決定していく仕組みを規定する。また相続法はその仕組みを①法定相続、②遺言、③遺留分の3つのシステムによって規定している。親族・相続法では、この二つの法についてみていく。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 45 回＝総授業時数 2250 分)

- 1 民法の基礎理論と構造
- 2 日本の家族法・相続法の歴史的特殊性
- 3 婚姻法－婚姻の要件、婚姻の取消し、婚姻の無効
- 4 婚姻法－婚姻の効果（1）
- 5 婚姻法－婚姻の効果（2）
- 6 離婚法－離婚の手続き、離婚の原因、離婚の届出
- 7 離婚法－離婚の効果
- 8 実親子法
- 9 養子法、親権法
- 10 相続法－概略
- 11 相続法－相続人
- 12 相続法－遺産分割

3. 評価方法

出席・授業態度・最終試験により最終評価

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

新法学ライブラリー9 家族法 [第5版] 以降 二宮周平 新世社

5. その他・特記事項

科目名	刑法各論		教員名	佐々木 邦	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

オンデマンド講義を視聴しつつ、刑法各論の重要論点について補足・解説を行う。また、適宜質疑応答を行っていく。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 45 回 = 総授業時数 2250 分)

1～3回 イントロダクション
4～6回 殺人罪
7～9回 傷害罪
10～12回 自動車運転による罪、遺棄・脅迫・強要罪
13～15回 性的自由に対する罪、住居侵入罪
16～18回 名誉に対する罪
19～21回 財産罪総説
22～24回 窃盗・強盗・事後強盗罪
25～27回 詐欺・恐喝・器物損壊・放火罪
28～30回 まとめ
31～45回 問題演習

3. 評価方法

原則として、出席点で評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

刑法各論（第3版）／高橋則夫／成文堂

5. その他・特記事項

科目名	情報リテラシー5 (Excel上級)		教員名	新川 涼子	配当年次	2年
実務教員	○	実務教員の紹介	過去の研究ではC++で音感教育アプリの開発をしていました。現在の研究では、Scratchの指導方法の研究、Excel動画教材のユーザビリティ、保育ICTシステムのユーザビリティについて研究しています。教員としての業務上はExcelVBAを用いて統計処理、成績に関する帳票管理などを行っています。			

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

1年次にExcel表計算処理技能認定試験3級の対策を行い、2年次ではExcel表計算処理技能認定試験2級の対策を行います。2級は、3級にはない知識試験があり、実技に関しても高度な機能を使います。まずはクイックマスターで個々の技能を習得し模擬問題で練習を繰り返しましょう。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

1	入力規則1	21	知識練習問題6、7
2	入力規則2	22	2級模擬問題1 実技
3	入力規則3	23	2級模擬問題1 実技
4	文字列操作関数 RIGHT、LEFT、MID	24	2級模擬問題1 知識
5	検索関数 VLOOKUP、HLOOKUP、INDEX	25	2級模擬問題2 実技
6	データベース関数 DAVERAGE、DSUM、DMAX、DMIN	26	2級模擬問題2 実技
7	関数の練習問題	27	2級模擬問題2 知識
8	データベースの抽出、小計	28	2級模擬問題3 実技
9	ピボットテーブル	29	2級模擬問題3 実技
10	マクロの記録	30	2級模擬問題3 知識
11	マクロの練習問題	31	2級模擬問題4 実技
12	ゴールシーク	32	2級模擬問題4 実技
13	2級実技練習問題1	33	2級模擬問題4 知識
14	2級実技練習問題1	34	Excel表計算技能認定試験2級 リハーサル 知識
15	知識練習問題1、2	35	Excel表計算技能認定試験2級 リハーサル 実技
16	2級実技練習問題2	36	総復習
17	2級実技練習問題2	37	Excel表計算技能認定試験2級 実施
18	知識練習問題3、4、5	38	Excel表計算技能認定試験2級 実施
19	2級実技練習問題3	39	Excel表計算技能認定試験2級 実施
20	2級実技練習問題3		

3. 評価方法

毎回の授業時の課題30%、検定の試験点数70%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

Excel2021 クイックマスター <応用編>,ウイネット,ウイネット
Excel®表計算処理技能認定試験 1・2級問題集(2021対応),
サーティファイソフトウェア活用能力認定委員会,サーティファイ

5. その他・特記事項

科目名	情報リテラシー4 (プログラミング)		教員名	新川 涼子	配当年次	2年
実務教員	○	実務教員の紹介	過去の研究ではC++で音感教育アプリの開発をしていました。現在の研究では、Scratchの指導方法の研究、Excel動画教材のユーザビリティ、保育ICTシステムのユーザビリティについて研究しています。教員としての業務上はExcelVBAを用いて統計処理、成績に関する帳票管理などを行っています。			

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

Scratchによりプログラミングを学習します。アルゴリズムを理解しコードを記述することを通して論理的思考を身に着けます。ジュニアプログラミング検定のブロンズ級、シルバー級の検定対策、コードのアレンジの方法を学び基本を習得します。最終課題では、オリジナルのゲームを作成します。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

1	ブロンズ級の例題作成1	16	シルバー級の課題作成2
2	ブロンズ級の例題作成2	17	シルバー級の課題作成3、アレンジ
3	ブロンズ級の課題作成1	18	クイズゲーム設計
4	ブロンズ級の課題作成2、アレンジ	19	クイズゲーム作成1
5	ひつじ河渡りゲームの作成1	20	クイズゲーム作成2
6	ひつじ河渡りゲームの作成2	21	ジュニアプログラミング検定 シルバー級 検定実施
7	お散歩プログラム設計	22	かえるになったナイト 例題部分作成1
8	お散歩プログラム作成1	23	かえるになったナイト 例題部分作成2
9	お散歩プログラム作成2	24	かえるになったナイトのその後 設計
10	ジュニアプログラミング検定 ブロンズ級 検定実施	25	かえるになったナイトのその後プログラム作成1
11	シルバー級の例題作成1	26	かえるになったナイトのその後プログラム作成2
12	シルバー級の例題作成2	27	自由課題 シューティングゲーム設計
13	シルバー級の例題作成3	28	自由課題 シューティングゲームプログラム作成1
14	シルバー級の例題作成4	29	自由課題 シューティングゲームプログラム作成2
15	シルバー級の課題作成1	30	オリジナルゲームの発表会

3. 評価方法

テキストの例題、課題プログラム作成15%、その他の課題15%
 ジュニアプログラミング検定ブロンズ級の成績35%、
 ジュニアプログラミング検定シルバー級の成績35%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

Scratch 3.0で楽しむ レッツ! プログラミング ジュニア・プログラミング検定 公式テキスト
 富士通エフ・オー・エム株式会社 (著)、FOM出版

5. その他・特記事項

科目名	ITパスポート		教員名	新川 涼子	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

ITパスポートは、ITを活用するすべての社会人・これから社会人となる学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験です。この授業では、新しい技術（AI、ビッグデータ、IoT など）や新しい手法（アジャイルなど）の概要に関する知識をはじめ、経営全般（経営戦略、マーケティング、財務、法務など）の知識、IT（セキュリティ、ネットワークなど）の知識、プロジェクトマネジメントの知識など幅広い分野の総合的知識を学習してもらい、ITパスポート試験合格を目指します。

2. 授業計画 (1時間 50 分×授業回数 75 回 = 総授業時数 3750 分)

1	ITパスポート試験とはどのような試験か？学習方法は？	39	3-5.セキュリティ (2)
2	1-1.コンピュータの構成要素 (1)	40	3-5.セキュリティ (3)
3	1-1.コンピュータの構成要素 (2)	41	3-5.セキュリティ (4)
4	1-1.コンピュータの構成要素 (3)	42	3-5.セキュリティ (5)
5	1-1.コンピュータの構成要素 確認問題	43	3-5.セキュリティ (6)
6	1-2.ソフトウェア (1)	44	3-5.セキュリティ (7)
7	1-2.ソフトウェア (2)	45	3-5.セキュリティ 確認問題1
8	1-2.ソフトウェア (3)	46	3-5.セキュリティ 確認問題2
9	1-2.ソフトウェア 確認問題	47	テクノロジー分野 過去問題演習1
10	2-1.コンピュータの考え方 (1)	48	テクノロジー分野 過去問題演習2
11	2-1.コンピュータの考え方 (2)	49	テクノロジー分野 過去問題演習3
12	2-1.コンピュータの考え方 (3)	50	4-1.システム開発 (1)
13	2-1.コンピュータの考え方 確認問題	51	4-1.システム開発 (2)
14	2-2.統計の基礎 統計の授業でやっている部分の確認	52	4-1.システム開発 (3)
15	2-2.統計の基礎 確認問題	53	4-1.システム開発 確認問題
16	2-3.アルゴリズムとプログラミング (1)	54	4-2.ITにかかわるマネジメント (1)
17	2-3.アルゴリズムとプログラミング (2)	55	4-2.ITにかかわるマネジメント (2)
18	2-3.アルゴリズムとプログラミング (3)	56	4-2.ITにかかわるマネジメント (3)
19	2-3.アルゴリズムとプログラミング 確認問題	57	4-2.ITにかかわるマネジメント確認問題
20	3-1.マルチメディア (1)	58	5-1.企業 (1)
21	3-1.マルチメディア (2)	59	5-1.企業 (2)
22	3-1.マルチメディア (3)	60	5-1.企業 (3)
23	3-1.マルチメディア 確認問題	61	5-1.企業 確認問題
24	3-2.データベース (1)	62	5-2.法務 (1)
25	3-2.データベース (2)	63	5-2.法務 (2)
26	3-2.データベース (3)	64	5-2.法務 確認問題
27	3-2.データベース 確認問題	65	6-1.経営マネジメント
28	3-3.コンピュータシステム (1)	66	6-2.技術戦略マネジメント
29	3-3.コンピュータシステム (2)	67	6-3.ビジネスインダストリ
30	3-3.コンピュータシステム (3)	68	6-4.システム戦略
31	3-3.コンピュータシステム 確認問題	69	6-5.システム企画
32	3-4.ネットワーク (1)	70	6-1～6-5 確認問題
33	3-4.ネットワーク (2)	71	ITパスポート過去問演習 (1)
34	3-4.ネットワーク (3)	72	ITパスポート過去問演習 (2)
35	3-4.ネットワーク (4)	73	ITパスポート過去問演習 (3)
36	3-4.ネットワーク (5)	74	ITパスポート過去問演習 (4)
37	3-4.ネットワーク 確認問題	75	ITパスポート過去問演習 (5)
38	3-5.セキュリティ (1)		

3. 評価方法

授業内での過去問題演習30%、単元ごとの確認テストの合算70%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

スピードマスター ITパスポート試験テキスト&問題集 七訂版、著作者 ITパスポート試験教育研究会、実教出版株式会社、1,650円 (税込み)

5. その他・特記事項

過去5年分の試験問題を100%理解できるまで繰り返し解くことが合格への近道です。

科目名	模擬試験演習		教員名	阿波根 剛史	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 演習 ）

公務員採用試験対策として、各科目の時間割に基づいて模擬試験を実施する。

2. 授業計画（1時限 50 分×授業回数 30 回＝総授業時数 1500 分）

各回 模擬試験を行う。
東京アカデミー模試または
公務員ゼミナール模試など。

3. 評価方法

模擬試験の出席・授業態度等で評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

特になし

5. その他・特記事項

2年次での模試演習は、公務員試験初級レベルの模試を行う。

科目名	公務研究Ⅱ		教員名	阿波根 剛史	配当年次	2年
実務教員	○	実務教員の紹介	中小企業家同友会による中小企業魅力発見フェアに参加し、フィールドワークやヒアリングの実践を通して今年度のフェア実施にもたずさわる。			

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

●課題解決型学習プロセスと学習プログラム：－フィールドワークやヒアリングなど実践力を学ぶ－
地域や企業に目を向け、その課題を調べ把握することを通して、地域や企業への眼差しを持った
未来を切り拓くことのできる人材を育成すること。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回＝総授業時数 1500 分)

- 1 地域や企業の調べ方と話し合いの基礎力
 - 1-1 導入・オリエンテーション
 - 1-2 参加者自己紹介
 - 1-3 チームづくりとテーマ設定
 - 1-4 テーマについての地域資源と課題だし
 - 1-5 ワーク「日頃の現場での話し合いについてのお悩み共有」
 - 1-6 講義「話し合いの場の進め方～基礎スキル～」
 - 1-7 地域や企業へのインタビュー
 - 1-8 フィールドワーク
- 2 中間発表
 - 2-1 フィールドワーク
 - 2-2 振り返りと発表内容のブラッシュアップ
 - 2-3 調べたことの発表

3. 評価方法

調べたことの発表：地域や企業への訪問やヒアリング、発表に向けての事前準備や学習など積極的に参加しているかどうかにより評価する

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

「ファシリテーション革命」 中野民夫著／岩波アクティブ新書 2003 年
 「組織を動かすファシリテーションの技術」堀公俊著／PHP 研究所、2004 年
 引用：「問いかけの作法」著：安斎勇樹

5. その他・特記事項

科目名	HR・課外授業Ⅱ		教員名	阿波根 剛史	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要 (授業方法: 講義・実習)

現在・今後の学生生活で注意すべき事柄、また、役立つ(かもしれない)事柄について、場合によっては学年の枠を超えて参加し、講義や調査、グループ学習、討論などを行ってもらう時間となります。学生の積極的な参加・発言を期待します。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

昨年度行ったような、「特別課外授業」のような形式での授業を基本的にイメージしてほしいです。
また、課題解決型学習の一環でもあります。

テーマとしては

○沖縄経済について考える

○「地域課題」について考える

○「異'校'種間交流」

○SDGを考え実践するための学習

などを想定しています。なお、学年によって試験や就職活動その他時間割の状況により、参加する場合としない場合があります。

3. 評価方法

学生の積極的な参加態度等により評価します。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

必要なものがあれば、その都度配布します。

5. その他・特記事項

科目名	社会政策		教員名	阿波根 剛史
実務教員	—	実務教員の紹介		

1. 授業概要 (授業方法： 講義)

「社会政策」とは何か、という問題は、常に問われなければならない問いである。人々の情報の受取先がテレビや新聞・本といったメディアからインターネットの世界へと変わり、様々な事柄がますます断片化・細分化されて伝わっているように思われる。あちこちで生じる「社会問題」、これらは個別バラバラな形で伝わることによって意味が見失われ、その本質をとらえることができなくなっている。このような社会における様々な諸問題を相互に関連付けて整理し、マクロな視点でとらえていくこと、これこそ「社会政策」そのものだ、といえるのではないだろうか。

この科目では、人々の生活に関わる諸問題を有機的に関連付けながら、その歴史も含めて学んでいく。基本的にはテキストとなる『よくわかる社会政策』第3版に準拠して講義する。その他、参考資料も使いながら、時事ニュース等も取り上げる予定である。

2. 授業計画 (1時限 50分×授業回数 60回＝ 総授業時数 3000分)

1	社会政策とは何か(1)	33	戦後日本の雇用・失業政策の展開
2	社会政策とは何か(2)	34	ブラック企業・ブラックバイト問題
3	社会政策の歴史的展開(1)	35	個別的労使関係と集団的労使関係
4	社会政策の歴史的展開(2)	36	産業別労働組合と企業別労働組合
5	格差と貧困問題(1)	37	戦後労働組合が築いた到達点
6	格差と貧困問題(2)	38	労働組合の現状
7	グローバル化と社会政策	39	労使関係の形骸化と個人加盟ユニオン
8	日本国憲法と社会政策	40	社会保障とは何か
9	賃金とは何か	41	生活保護制度
10	日本の賃金の歩み	42	医療保険制度
11	賃金体系の変遷	43	公的介護保険
12	同一価値労働同一賃金の原則	44	公的年金の目的としくみ
13	社会政策としての最低賃金制	45	障がい者政策
14	日本の最低賃金制	46	保育・子育て支援
15	賃金闘争：春闘の過去・現在・未来	47	高齢社会の課題と社会政策
16	「働き方改革」と賃金	48	高齢社会の持続可能性
17	労働時間と生産性の理論	49	男女平等をめぐる視点
18	労働時間制度の歴史	50	男女平等政策の歴史
19	日本の労働時間制度	51	ワークライフバランスの現状と課題
20	休日・休暇・休息制度の実態	52	少子高齢化が女性にもたらす影響
21	日本的な労働時間規制	53	家庭生活と女性
22	時間外労働の濫用	54	外国人労働者問題とは何か
23	過労死・過労自殺の実態	55	現代日本の外国人労働者
24	労働時間制度の改善に向けた課題	56	外国人技能実習生
25	失業の発生と現代日本の状況	57	「不法就労」外国人労働者
26	日本型雇用と正社員	58	「定住化」と外国人住民問題
27	雇用形態の多様化と不安定就業	59	外国人労働者と多文化共生
28	非正規雇用と女性労働	60	最終試験
29	個人事業主とテレワーク	61	
30	若者の雇用問題	62	
31	雇用・失業と社会政策の役割	63	
32	前期試験	64	

3. 評価方法

出席率および授業態度50%、前期・後期試験50%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

書 名	著 者 名	出 版 社
『よくわかる社会政策』第3版 その他、必要に応じて参考文献や新聞記事等を用いる。	石畑良太郎・牧野富夫・佐賀一道編著	ミネルヴァ書房

5. その他・特記事項

科目名	数的処理Ⅲ		教員名	美里 勉	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

問題文の読み方、ヒントの見つけ方、切り込みの仕方を講師独自の観点から説く。

私立中学入試問題と初級程度の公務員試験過去問の反復練習で講師独自の解法の慣れを目指す。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分)

- | | |
|-----------|------------|
| 1 公約数・公倍数 | 15 通過算 |
| 2 集合と論理 | 16 流水算 |
| 3 場合の数 | 17 時計算 |
| 4 単位換算 | 18 ニュートン算 |
| 5 等差数列 | 19 面積と比 |
| 6 和差算 | 20 円・おうぎ形 |
| 7 面積図 | 21 相似 |
| 8 過不足算 | 22 相似比と面積比 |
| 9 相当算 | |
| 10 損益算 | |
| 11 濃度 | |
| 12 仕事算 | |
| 13 速さ | |
| 14 旅人算 | |

3. 評価方法

- 出席率
- 授業参加率

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

- 私立中学入試問題
- 公務員過去問題集

5. その他・特記事項

科目名	空間把握Ⅲ		教員名	美里 勉	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

(授業方

1. 授業概要 法: 講義)

空間把握は直感や想像力・インスピレーションで解くものも多いが、全て理論的に説明できる。
知識としてその理論を知っているか、公式化されてるのを知っているか、厭わずに反復練習したか、でしかない。
講師独自の解法を紹介しながら私立中学入試問題と初級程度の公務員試験の過去問を反復練習する。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

- 1 柱体・すい体・正多面体
- 2 展開図・投影図・回転体
- 3 体積と比
- 4 立体の切断
- 5 折り紙
- 6 回転・移動
- 7 経路

3. 評価方法

1. 出席率
2. 授業参加率

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

1. 私立中学入試問題集
2. 公務員過去問題集

5. その他・特記事項

科目名	文章理解		教員名	津覇 実明	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

公務員試験における過去問ならびに類似問題を中心に演習する。
制限時間内に回答し採点した上で講評する。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

- | | |
|------------------|-----------|
| 1 文章理解問題の解き方 I | 15 国語常識問題 |
| 2 文章理解問題の解き方 II | |
| 3 文章理解問題の解き方 III | |
| 4 内容一致 I | |
| 5 内容一致 II | |
| 6 内容一致 III | |
| 7 内容一致 IV | |
| 8 内容一致 V | |
| 9 文章並び替え I | |
| 10 文章並び替え II | |
| 11 文章並び替え III | |
| 12 空欄補充 I | |
| 13 空欄補充 II | |
| 14 空欄補充 III | |

3. 評価方法

回答内容40% 出席40% 姿勢10%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

特になし。

5. その他・特記事項

科目名	小論文		教員名	津覇 実明	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要 (授業方法: 講義・演習)

小論文は「小さな」「論文」である。「小さな」の意味は字数で800字から1500字の範囲とする。「論文」は論理的な文章を意味する。課題文から読み取った論点を文字を通して読み手に伝えるチャンネルが論理である。このことを肝に銘じて講義に臨んで欲しい。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 60 回 = 総授業時数 3000 分)

- | | |
|------------|--------|
| 1 小論文の書き方Ⅰ | 15 演習Ⅴ |
| 2 小論文の書き方Ⅱ | |
| 3 課題に正対する | |
| 4 論点の抽出Ⅰ | |
| 5 論点の抽出Ⅱ | |
| 6 論点の整理Ⅰ | |
| 7 論点の整理Ⅱ | |
| 8 小論文の構成Ⅰ | |
| 9 小論文の構成Ⅱ | |
| 10 小論文の構成Ⅲ | |
| 11 演習Ⅰ | |
| 12 演習Ⅱ | |
| 13 演習Ⅲ | |
| 14 演習Ⅳ | |

3. 評価方法

論文の内容50% 出席率40% 取り組む姿勢10%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

特になし。

5. その他・特記事項

科目名	民法演習（3年）		教員名	仲嶺 望	配当年次	3年
実務教員		実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法：講義・演習）

民法総則について知識の習得と過去問を踏まえて実践的に問題演習を行う。インプット（講義）とアウトプット（演習）のバランスを重視し、出題に対する知識の習熟を図る。民法については総則と物権の頻出論点を重点に授業を進める。

2. 授業計画（1時限 50 分×授業回数 30 回＝総授業時数 1500 分）

- | | | |
|---------------------|-----|-----------------|
| 1 総則①－民法の意義、権利と義務 | 1 5 | 物権⑦－約定担保物権（質権） |
| 2 総則②－権利能力・行為能力 | 1 6 | 物権⑧－約定担保物権（抵当権） |
| 3 総則③－意思表示 | | |
| 4 総則④－法人・権利なき社团 | | |
| 5 総則⑤－代理（無権代理） | | |
| 6 総則⑥－代理（表見代理） | | |
| 7 総則⑦－条件・期限・期間 | | |
| 8 総則⑧－時効（取得時効・消滅時効） | | |
| 9 物権①－不動産物権変動 | | |
| 10 物権②－動産物権変動 | | |
| 11 物権③－占有権 | | |
| 12 物権④－所有権 | | |
| 13 物権⑤－法定担保物権（留置権） | | |
| 14 物権⑥－法定担保物権（先取特権） | | |

3. 評価方法

出席率・授業態度50％、演習課題正答率50％

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

オリジナルのプリント等を使用する。

5. その他・特記事項

科目名	民法3（債権総論）		教員名	仲嶺 望	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

民法第3編第1章（399条～520条の20）の債権総論と呼ばれる分野を学習します。六法を手元に置いて、概説書や判例集を読み進めるといふ地道な作業が必要になります。到達目標として、1. 債権総論領域で登場する基本概念を理解できるようになること 2. 債権総論領域に規定されている諸制度の要件・効果を理解できるようになること になります。

2. 授業計画（1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分）

- | | |
|--|---|
| <p>I 債権法総説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・債権 ・債権法の全体像 ・債権 ・債権法の全体像 | <p>V 多数当事者の債権・債務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分割債権・分割債務 ・不可分債権・不可分債務 ・連帯債権 ・連帯債務 ・保証債務 ・個人根保証契 |
| <p>II 債権の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・債権の目的に関する要件 ・特定物債権と種類債権 ・債権の目的に関する要件 ・特定物債権と種類債権 | <p>VI 債権・債務の移転</p> <ul style="list-style-type: none"> ・債権譲渡 ・債務引受け ・契約上の地位の移転 |
| <p>III 債権の効力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現実的履行の強制 ・債務不履行に基づく損害賠償請求 ・債権者の受領遅滞 | <p>VII 債権・債務の消滅</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総説 ・弁済 ・代物弁済・供託 ・更改・免除 |
| <p>IV 責任財産の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総説 ・債権者代位権 ・詐害行為取消権 | |

3. 評価方法

出席・授業態度・最終試験により最終評価

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

野村 豊弘・栗田 哲男 他『民法Ⅲ－債権総論』〔第4版〕（有斐閣）

5. その他・特記事項

科目名	民法4（債権各論）		教員名	仲嶺 望	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

民法財産法という大きな体系の中の一大領域が債権法ですが、これはさらに大きく2つの領域に分かれます。債権の発生原因や内容を問わずに共通して適用される制度・条文を集めた部分を「債権総論」といい、債権の発生原因ごとに個別のルールを定めるのが「債権各論」といいます。債権の発生原因に、契約及び事務管理・不当利得・不法行為があり、債権法各論ではこの部分について詳しく学びます。

2. 授業計画（1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分）

契約総論の分野

- ① 契約法総論
- ② 契約の成立、効力
- ③ 契約の解除、危険負担との関係

法定債権の分野

- ⑫ 不当利得、事務管理
- ⑬ 不法行為法（1）基礎と概観
- ⑭ 不法行為法（2）要件等

典型契約の分野

- ④ 典型契約の概観
- ⑤ 売買契約（1）債務内容
- ⑥ 売買契約（2）契約不適合責任等
- ⑦ 売買契約（3）売買における危険の移転
- ⑧ 賃貸借（1）債務内容
- ⑨ 賃貸借（2）賃借権の対抗力
- ⑩ 賃貸借（3）賃借権の譲渡、転貸、終了
- ⑪ 役務提供型の契約

3. 評価方法

出席・授業態度・最終試験により最終評価

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

債権各論講義〔初版〕以降 原田剛 成文堂

5. その他・特記事項

科目名	行政法 1		教員名	阿波根 剛史	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

この科目の授業は、以下の3つの部分に大別されます。まず第1編「行政法とは何か」では、国や地方公共団体の行政活動を規律する法規範や法原理を明らかにします。次に第2編「行政活動のプロセス」では視点を行政の側に切り換え、国や地方公共団体はいかなる法的手段を用い得るかを明らかにします。そして第3編「行政活動に対する制約原理」では視点を再び法規範や法原理の側に戻して、多様な行政活動を制約する法原理の具体的内容を詳細に解説します。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 60 回 = 総授業時数 3000 分)

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1 行政法の基礎 | 15 不利益処分 |
| 2 行政上の法律関係 | 16 行政指導 |
| 3 法律による行政の原理 | 17 処分等の求め |
| 4 行政法の法源 | 18 届出 |
| 5 行政主体と行政機関 | 19 命令等 |
| 6 国の行政機関 | 20 地方公共団体への適用 |
| 7 公物 | 21 情報公開法の整備とその目的 |
| 8 行政作用法総説 | 22 公開すべき機関 |
| 9 行政作用の分類 | 23 公開の対象 |
| 10 行政行為 | 24 開示請求権者と開示請求目的 |
| 11 行政上の強制措置 | 25 開示請求手続 |
| 12 その他の行政作用 | 26 不開示決定等に対する救済制度 |
| 13 行政手続法総説 | 27 地方公共団体における情報公開条例 |
| 14 申請に対する処分 | |

3. 評価方法

出席率・授業態度50%、筆記試験50%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

現代行政法入門 (第4版) など

5. その他・特記事項

科目名	行政法 2		教員名	阿波根 剛史	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

行政救済法は行政法総論と並んで、行政法を構成する2つの支柱の1つです。行政法総論は、行政活動を共通に規律し支配する法原理や法規範を明らかにするのに対して、行政救済法は、そのような法原理や法規範に反する行政活動を是正し又は防止することにより、行政の適正性を回復することを目指していますこのような意味で、行政救済法を解説する行政法2は、行政法総論を解説する行政法1と表裏の関係にあります。したがって、この行政法2を学びながら、常に行政法1で学んだことを思い出して頂く必要があります。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 60 回 = 総授業時数 3000 分)

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 行政救済法の体系 | 15 国家賠償法総説 |
| 2 行政救済法の対象となる行為 | 16 公権力の行使に基づく損害賠償責任 (1条) |
| 3 行政不服審査法 | 17 公の造営物の設置管理の瑕疵の基づく |
| 4 行政審判 | 損害賠償責任 (2条) |
| 5 略式の紛争処理手続 | 18 国家賠償法と民法の比較 |
| 6 行政事件訴訟法総説 | 19 損失補償制度総説 |
| 7 行政事件訴訟法の種類 | 20 損失補償が必要なのはどのような場合か |
| 8 取消訴訟 | 21 損失補償の内容と方法 |
| 9 取消訴訟を提起するための要件 | 22 国家賠償と損失補償の限界 |
| 10 審理手続 | |
| 11 訴訟の終了 | |
| 12 その他の行政事件訴訟 | |
| 13 教示制度 | |
| 14 行政事件訴訟と行政不服申立ての比較 | |

3. 評価方法

出席率・授業態度50%、筆記試験50%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

現代行政法入門 (第4版) など

5. その他・特記事項

科目名	労働法（個別的）		教員名	佐々木 邦	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

労働者個人を対象とする労働法規（労働基準法、労働契約法）を中心に講義する。労働者の権利は、憲法が直接規定する重要な権利であることを前提に、指定テキスト及び中央大学法学部のレジュメを随時使用しながら、労働法規がどのような権利を保護し、どのような趣旨で制定され、どのように実務で運用されているかを学習する。

2. 授業計画（1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分）

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1 労働法とは | 15 解雇権濫用法理 |
| 2 労働法の形成と展開 | 16 整理解雇 |
| 3 労働関係の特色 | 17 解雇・期間満了以外の労働契約終了事由 |
| 4 労働基本権 | 18 採用の自由と募集・採用に関する法規制 |
| 5 憲法の人権規定と労働人権法 | 19 労働契約の成立と労働条件明示 |
| 6 労働条件規制システム | 20 採用内定 |
| 7 個別的労働関係法総論 | 21 試用期間 |
| 8 労働保護法（労働基準法を中心） | 22 就業規則の労働契約に対する効力 |
| 9 雇用平等、ワークライフバランス法制 | 23 就業規則の不利益変更の拘束力 |
| 10 賃金 | 24 配転・出向・転籍 |
| 11 労働時間 | 25 休職 |
| 12 年次有給休暇 | 26 懲戒 |
| 13 労働契約の基本原則 | 27 非正規雇用 |
| 14 解雇 | 28 労働者派遣法 |

3. 評価方法

出席数、受講態度、課題に対する対応力、中央大学定期試験の結果等を総合評価する

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

荒木尚志「労働法 第5版」（有斐閣）、公務員合格テキスト「労働法」（伊藤塾）、別冊ジュリスト「労働判例百選」（有斐閣）、中央大学法学部通信教育課程レジュメ

5. その他・特記事項

科目名	刑事政策		教員名	儀武 玄秀	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

オンデマンド講義を視聴しつつ、刑事政策の重要論点について補足・解説を行う。また、適宜質疑応答を行っていく。

2. 授業計画（1時限 50 分×授業回数 45 回＝総授業時数 2250 分）

1～3回 イントロダクション
4～6回 刑事政策全般・日本の犯罪情勢
7～9回 刑事司法手続・犯罪者処遇の流れ
10～12回 DV・ストーカー・児童虐待
13～15回 少年非行・高齢者犯罪・精神障害者犯罪
16～18回 企業犯罪・交通犯罪
19～21回 消費者事犯・特殊詐欺
22～24回 組織犯罪・薬物犯罪・マネーロンダリング
25～27回 サイバー犯罪・国際テロ
28～30回 犯罪学・犯罪原因論・刑罰論
31～33回 犯罪予防・犯罪被害者支援
34～36回 再犯防止施策
37～39回 まとめ
40～45回 問題演習

3. 評価方法

原則として、出席点で評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

刑事政策（第2版）／川出敏裕・金光旭／成文堂

5. その他・特記事項

科目名	犯罪学		教員名	儀武 玄秀	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義 ）

オンデマンド講義を視聴しつつ、犯罪学の重要論点について補足・解説を行う。また、適宜質疑応答を行っていく。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 45 回 = 総授業時数 2250 分)

1～3回 イン트로ダクション
4～6回 犯罪学の意義
7～9回 犯罪学の歴史
10～12回 犯罪学の動向
13～15回 伝統的な犯罪
16～18回 近年の犯罪学の展開
19～21回 環境犯罪学
22～24回 犯罪学調査の方法
25～27回 捜査支援技法
28～30回 犯罪からの離脱（デジスタンス）
31～33回 被害者
34～36回 まとめ
37～45回 問題演習

3. 評価方法

原則として、出席点で評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

ビギナーズ犯罪学〔第2版〕/守山正、小林寿一/成文堂

5. その他・特記事項

科目名	公務研究Ⅲ		教員名	阿波根 剛史	配当年次	3年
実務教員	○	実務教員の紹介	中小企業家同友会による中小企業魅力発見フェアに参加し、フィールドワークやヒアリングの実践を通して今年度のフェア実施にもたずさわる。			

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

●課題解決型学習プロセスと学習プログラム：－フィールドワークやヒアリングなど実践力を学ぶ－
地域や企業に目を向け、その課題を調べ把握することを通して、地域や企業への眼差しを持った未来を切り拓くことのできる人材を育成すること。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

- 1 地域や企業の調べ方と話し合いの基礎力
 - 1-1 導入・オリエンテーション
 - 1-2 参加者自己紹介
 - 1-3 チームづくりとテーマ設定
 - 1-4 テーマについての地域資源と課題だし
 - 1-5 ワーク「日頃の現場での話し合いについてのお悩み共有」
 - 1-6 講義「話し合いの場の進め方～基礎スキル～」
 - 1-7 地域や企業へのインタビュー
 - 1-8 フィールドワーク
- 2 中間発表
 - 2-1 フィールドワーク
 - 2-2 振り返りと発表内容のブラッシュアップ
 - 2-3 調べたことの発表

3. 評価方法

調べたことの発表：地域や企業への訪問やヒアリング、発表に向けての事前準備や学習など積極的に参加しているかどうかにより評価する

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

「ファシリテーション革命」 中野民夫著／岩波アクティブ新書 2003 年
「組織を動かすファシリテーションの技術」堀公俊著／PHP 研究所、2004 年
引用：「問いかけの作法」著：安斎勇樹

5. その他・特記事項

科目名	公務研究IV		教員名	阿波根 剛史	配当年次	4年
実務教員	○	実務教員の紹介	中小企業家同友会による中小企業魅力発見フェアに参加し、フィールドワークやヒアリングの実践を通して今年度のフェア実施にもたずさわる。			

1. 授業概要 (授業方法: 講義)

●課題解決型学習プロセスと学習プログラム：－フィールドワークやヒアリングなど実践力を学べる地域や企業に目を向け、その課題を調べ把握することを通して、地域や企業への眼差しを持った未来を切り拓くことのできる人材を育成すること。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

- 1 地域や企業の調べ方と話し合いの基礎力
 - 1-1 導入・オリエンテーション
 - 1-2 参加者自己紹介
 - 1-3 チームづくりとテーマ設定
 - 1-4 テーマについての地域資源と課題探し
 - 1-5 ワーク「日頃の現場での話し合いについてのお悩み共有」
 - 1-6 講義「話し合いの場の進め方～基礎スキル～」
 - 1-7 地域や企業へのインタビュー
 - 1-8 フィールドワーク
- 2 中間発表
 - 2-1 フィールドワーク
 - 2-2 振り返りと発表内容のブラッシュアップ
 - 2-3 調べたことの発表

3. 評価方法

調べたことの発表：地域や企業への訪問やヒアリング、発表に向けての事前準備や学習など積極的に参加しているかどうかにより評価する

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

「ファシリテーション革命」 中野民夫著／岩波アクティブ新書 2003 年
 「組織を動かすファシリテーションの技術」堀公俊著／PHP 研究所、2004 年
 引用：「問いかけの作法」著：安斎勇樹

5. その他・特記事項

科目名	HR・課外授業Ⅳ		教員名	阿波根 剛史	配当年次	4年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要（授業方法： 講義・実習 ）

現在・今後の学生生活で注意すべき事柄、また、役立つ（かもしれない）事柄について、場合によっては学年の枠を超えて参加し、講義や調査、グループ学習、討論などを行ってもらう時間となります。学生の積極的な参加・発言を期待します。

2. 授業計画（1時限 50 分×授業回数 30 回＝総授業時数 1500 分）

昨年度行ったような、「特別課外授業」のような形式での授業を基本的にイメージしてほしいです。
また、課題解決型学習の一環でもあります。

テーマとしては

○沖縄経済について考える

○「地域課題」について考える

○「異'校'種間交流」

○SDGを考え実践するための学習

などを想定しています。なお、学年によって試験や就職活動その他時間割の状況により、参加する場合としない場合があります。

3. 評価方法

学生の積極的な参加態度等により評価します。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

必要なものがあれば、その都度配布します。

5. その他・特記事項